

平成25年度 佐久長聖中学校 学校関係者評価

評価 A：十分できている B：概ね十分できている C：普通である D：不十分なところがある E：ほとんどできていない

分野	評価項目		評価の観点	評価	成果と課題
学習指導	授業内容の充実	1	授業評価を適宜行い、その内容を検討して、生徒の学ぶ意欲を喚起する授業ができたか。	A	生徒の理解の様子により授業の組み立てを変え、生徒の興味を引き出す教材選択を心がけている。授業そのものには意欲的な生徒が多くなった。挙手の少ない生徒を授業にどう参加させるか発問に工夫をしてほしい。基礎学力が不足している生徒に合った投げかけを行ない、レベルに合った達成感を味わえるように努めてほしい。成績下位の生徒への指導は試行錯誤である。
	教科指導力の向上	2	研究授業や教員相互の授業参観を実施し、授業の質的向上に役立てたか。	A	校内の研究授業を通して教科を越えた研修ができている。研究授業、研究会に参加し、出された意見を自分の授業に照らし合わせ活用できた。教科内での授業参観や日頃の指導法に関する意見交換がより活発に行えるといい。さらに教科内、他教科間でも授業改善を活性化させ、資質の向上を目指してほしい。
		3	模試・検定結果を教科内で分析し、生徒の学力に応じた授業を実施したか。	A	上位者だけでなく下位者にも丁寧に対応している。生徒の学力に合った指導を心がけている。長期的に分析し学校としての特徴を洗い出し授業に応用できる点は対処してほしい。分析結果をいかに学力向上につなげられるか、具体策を練るまでに結びつかない。普段の授業レベルをどこに合わせるのか、どうしていくことで全員に力をつけられるのか。中・下位層のモチベーション低下に対する対応。
	学習習慣の確立	4	学習状況・学習時間の定期的調査と面接指導で、適切なアドバイスができたか。	A	生活記録等で日々の学習状況を確認している。見直しノートを提出させ、学習方法になどに関するアドバイスをした。伸び悩んでいる生徒に積極的・効果的な助言をしてほしい。面接指導が特定の生徒にかたよってしまう点が課題なので、短時間でも全員に行うよう配慮が必要。下位層の生徒の底上げは課題。
		5	授業効率を上げるため、生徒の授業に臨む姿勢の育成・指導に努めたか。	A	要求された課題以外に自ら学ぼうとする志のある生徒を今後も育てたい。授業中の指導、個別の面接を通して授業への姿勢の指導を適宜行い、生徒は前向きになってきた。始業前の準備を促し、その日の学習内容を授業の始めに伝えることで効率を上げることに役立っている。不真面目な態度は許さないという一貫した態度で授業に臨んだ。意欲の低い生徒、集中力の持続しない生徒のやる気の喚起が課題である。
進路指導	希望進路の実現	6	6年間を見通した計画に基づいて指導が行われたか。各学年と係の連携が十分であったか。(模試・補習・進路講話・大学研究会・勉強合宿等)	B	TMコース、スルアップの中学校3学年がそろったことにより高校との連携が進んだ。学年集会等において様々な資料を用いて意識付けを行うことができた。卒業生の講話についてはできるだけ計画的・系統的にテーマを決めて実施することが望ましい。勉強合宿や大学見学で生徒のモチベーションを高めることができた。中高の教員が教科指導内容をはじめ情報交換する機会を増やし定期的に検討してほしい。高1模試分析等で大学入試を意識させることができた。
		7	進路指導に生かせるようなデータ整備・分析ができたか。	A	長期的視野でデータの整備・分析をすべき。進路に関する意識づけは課題。体験学習の有高の研究。
		8	勤労と職業観を育てるキャリア教育を実施したか。	A	一日社会体験などを活用したり、学年集会、HR等で折に触れ職業について話した。希望進路を定期的に調査することで意識を高めたい。ゲスト(企業探求プログラム)を実施したことにより例年よりは充実した。
生活指導	自立的生活の確立	9	服装・挨拶等、生徒の自律的取り組みの支援ができたか。	B	教師側から多く発信することはできたが、委員・係を中心に生徒自身を動かせるとよりよい。指摘されたから従うという域を超えられない生徒もいるので継続した指導が必要。
	生徒相談の充実	10	担任・学年・部活顧問・生徒指導係等が連携を取りながら適切に生徒相談に乗れたか。	A	様々な生徒指導に対して誠実に行動し、概ねの信頼を得られた。悩みを抱えている生徒とこまめに面談をし問題解決に当たっている。関係する職員同士の情報交換をこまめに行い生徒を多面的にとらえるよう努めている。情報交換を成果に結びつけるためのカンファレンスが必要。
	安心・安全な学習環境の確保	11	校内の清掃美化が進んだか。定期的な巡視・立門・交通安全指導ができたか。	A	生徒会美化委員会が新設されたため意識は高まり、放課後の見回り等計画に基づいて実施できた。清掃時には必ず立ち会い、状況を常に観察している。教師の声がけがなくても自ら進んで美化を心がける生徒を育てたい。学習環境整備に向けての教室内の清掃美化はできた。立門指導は不十分であった。
開かれた学校づくり	開かれた学校づくり	12	地域や保護者の意見・要望に対して迅速に対応できたか。	A	保護者面談を含めて、家庭連絡密に取り合っ情報共有の共有を図ることはできた。館生の帰宅書や参観日、講演会等の時、アンケート、意見、要望に可能な限り迅速に対応した。「地域の学校」を意識した取り組みはもっとあってもよい。保護者面談は年1回だがもう1回できるとよいのではないか。
		13	ホームページや学年通信を通して、各種情報を生徒や保護者に提供できたか。	A	ホームページはリニューアルされ充実している。学年通信は定期的に発行できた。学級通信は適宜出し保護者にクラスの様子を発信した。スルアップコースの活動も深く広く取り上げられるとよい。ホームページへの掲載が遅れないようにしたい。館通信の内容の検討。
		14	情報を積極的に発信し、地域との連携を深めたか。	B	委員会活動を通して地域との関わりは持てた。公開授業で学校内、授業の様子は伝えられた。情報発信の量・質ともに向上させ地域と有機的に連携するようにしたい。地域へ生徒が出る機会作りを増やせるとよい。